



歯科医・彌勒寺寛之の

後悔しない

歯科治療の受け方

第15回

「失った歯を補う方法②

入れ歯」

こんにちは。土沢デンタルクリニック院長の彌勒寺です。今回は失った歯を補う3つの方法のひとつである「ブリッジ」をご説明しました。今回は、一般的に最もなじみ深いと思われる「入れ歯」についてお話しします。

「入れ歯」のメリットは何といっても、保険が適用されるため「非常に安い」というところでしょう。しかも手軽に、なおかつ短期間で作ることが可能です。皆さんは自分の祖父母が入れ歯をしているのを見て、「なんで歯がなくなっちゃったんだろう？」と子供心に思われた記憶はありませんか？“年を取ったら入れ歯”というイメージは、そうした体験をベースとして幼くして我々の意識にすり込まれているのかもしれませんが。

しかし、入れ歯には様々なデメリットがあります。まず、入れ歯は人工の異物ですので、補う歯の本数が多くなるほど、口の中に違和感が出てきます。口の中は繊細に出来ており、髪の毛1本でも咬んでわかるのですから、女性の握り拳位の大きさになる総入れ歯に違和感がない訳ないのです。また、総入れ歯に近づくにつれて、食べ物がはさまる、痛いなどの理由により、咬むという重要な行為をすることが難しくなる場合があります。総入れ歯になると、たとえ咬むことができたとしても、自分の歯よりも咬む力が弱くなります。そうすると、固いものなどを避けざるを得なくなってきます。ある調査によると、総入れ歯の人と自分の歯が10本以上残っている人を比較した場合、総入れ歯の人の方が明らかにアルツハイマーになりやすいと

いうラットによる実験データも出ています。歯をかみ合わせたときに脳へ伝わる刺激というのはそれほど重要なのです。この刺激が行かなくなることによって、記憶をつかさどる海馬という脳の機能と運動能力が低下してしまうのです。つまり、きちんと咬めるということは年をとってからの生活、例えば、モノを覚える、人と話す、歩く、出かけるなどの生活に重要な機能にも重大な影響を及ぼすのです。

また部分入れ歯の場合、入れ歯を入れる両サイドの歯にバネのようなものをかけ、入れ歯を固定します。しかし、支えにされた方の歯はたまったものではありません。咬む度に、上下左右に揺さぶられ、力を加えられ続けます。刺さった釘でも、長い時間をかけて上下左右に揺さぶられると抜けてしまうのと同じように、バネをかけられてしまった歯は5年以内に抜けてしまうことが多いようです。これを繰り返せば、総入れ歯に着実に近づいてしまうことになるのです。

さらに、入れ歯の場合ブリッジのように固定式ではなく取り外し式なので、キレイにするために毎日手入れをしなければなりません。これが手間であるだけでなく、「他の人に見られると恥ずかしい」ということになります。このように入れ歯は安く出来るということの代償として、心身に負担やストレスをかけているのです。

次回、3つ目の方法である「インプラント」をご紹介します。



～著者プロフィール～

土沢デンタルクリニック院長 彌勒寺 寛之 (みろくじ ひろゆき) 1979年東京生まれ
住 所 宇都宮市本丸町11-12 T E L 028-634-5141 (URL) <http://tda86.com>

所属学会

日本口腔インプラント学会 日本歯科審美学会 日本歯周病学会

日本小児歯科学会 日本ヘルスケア歯科研究会

※学会で得た知識を活かして、個人的に無料相談室を開設しました。

お口のことで疑問に思っていることなどがありましたら、お気軽にご相談下さい。

当クリニックのホームページからメールで受け付けています。

(この無料相談室は予告なく終了することがありますので、ご了承下さい。)

